

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金
大学院生研究 2024年度研究成果報告書

研究科名	コミュニティ福祉学研究科	
指導教員	所属・職名	氏 名
	コミュニティ福祉学研究科・准教授	原田 峻
研究課題名	インドにおける社会開発の促進 —Self-Employed Women’s Association(SEWA)による女性のエンパワーメント—	
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏 名
	コミュニティ福祉学研究科・コミュニティ福祉学専攻・博士前期課程2年	宮原 凜
研究期間	2024年度	
研究経費	(支出金額) 200,000 円／(採択金額) 200,000 円	

研究の概要 (200～300 字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

申請者は、本研究の目的を「インド国内における Self-Employed Women’s Association (以下 SEWA) の活動の意義を明らかにしたうえで、抑圧を超えた社会を創造するためには何が必要なのかを明らかにすること」としている。調査方法は、既存研究の分析、SEWA、SEWA の姉妹団体である SEWA Bharat(セワ・バーラト)、SEWA の関連組織が公開する資料の分析、そして SEWA 会員を対象とした現地調査である。SEWA の2つの姉妹団体に所属するコーディネーターの方と活動メンバーの方への聞き取り調査を行い、SEWA の活動の意義と活動への参加を通じた女性の変化と SEWA で活躍する草の根の女性リーダーの意義を分析し、抑圧のような社会的カテゴリーを超えた社会の創造の可能性を考察している。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[SEWA] [ジェンダー] [インフォーマル・セクター]

研究成果の概要 (600～800 字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本報告書では、特に重要と思われる結果として、(1) 収入もしくは資産面での変化 (2) 周囲との関係性の変化に言及している。なお、聞き取り調査の結果に関しては、紙面の都合上、本学術推進資金に直接関係する 2024 年 10 月 8 日～10 月 15 日に実施したインド・デリー首都直轄領における聞き取り調査、参与観察の結果の分析のみを記載しており、内容を要約したものを記述している。

(1) 収入もしくは資産面での変化

まず調査における女性たちの回答から、SEWA への参加によって女性たちの資産や収入が変化していることが明らかとなった。彼女たちによれば、SEWA に参加後、収入増加し、女性名義で資産を購入したという。実際、回答した女性たちの中には SEWA の活動に参加後、収入が約 10% 増加した女性や自身の名義で住宅を購入することができた女性がいた。このように、女性たちは SEWA の活動に参加することによって、収入を増加させ、資産を取得することができている。

(2) 周囲との関係性の変化

また現地調査から、SEWA 参加前の女性たちは家庭内で意見が言えないことや配慮されない現状があったにもかかわらず、SEWA の活動に参加をすることによって、自身の家族構成員との関係に変化が生まれていることが分かった。そして男性たちは女性たちが SEWA の中で経験したことや得た知識、情報、また雇用によって、彼女たち自身を「労働者」の 1 人として捉え、SEWA の活動に参加した後は彼女たちの意見や考えを尊重していることが分析できた。これらのことから、SEWA の活動は女性たちに知識や保障を提供するだけでなく、男性との関係の変化に寄与している現状が明らかである。

以上のことが、現地調査から明らかとなった SEWA の活動を通じた女性たちの変化に関する考察である。SEWA の活動を通して、女性たちは経済的变化を経験するだけでなく、周囲との関係においても変化を経験していることが分析できた。

※ この(様式2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4 縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。

該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

④2024 年 12 月 5 日筑紫女学院大学「NPO・NGO 論 (2024 年度大学後期)」にてゲスト講師として報告